



ここから

通信  
-KOKOTU-

	土	日	月	火	水	木	金
午前	●	●	●	●	-	●	●
午後	●	●	-	●	-	●	●

診療科目：内科/放射線科/循環器科/リウマチ科  
〒960-8068  
福島市太田町20-7 佐周ビル 1階  
TEL:024-573-9335 FAX:024-573-9380

## 学校検診を継続し、早期発見・早期治療を

原発事故後、県民の要請で2011年10月から始まった甲状腺エコー検査で、すでに200人をはるかに超える若年者の甲状腺がんが見つかっています（詳しくは裏面に報告）。この事態に対して「見つけなくていいがんを見つけている」「甲状腺がんでは死なない」と言って甲状腺検査の縮小、とりわけ学校検診の取りやめを主張する学者がいます。

先日、伊達市民のデータを勝手に使い、しかも住民の被曝線量を3分の1に低く見積もって問題になった早野龍五東京大学名誉教授もそのひとりです。彼らは「甲状腺検査にメリットはない」とまで言いますが、科学的にも医学的にも根拠はありません。エコー検査にデメリットはありません。はじめから検査をしないで、がんを放置するという選択は間違っています。

福島県の県民健康調査検討委員会のもとで開催されている甲状腺検査評価部会においても、「（甲状腺がんを）そのまま放置したら、気管の出血が起こります。出血による窒息死が起こりますし、頸部大動脈・大静脈に浸潤して大出血を起こす。そういうのをわれわれは具体的に経験しています」と甲状腺外科医の部会員

が発言しています。「早期発見、早期治療」にメリットがあることは明らかです。県民健康調査検討委員会の委員の間でも、学校検診の取りやめには反対の意見が増えています。

ベラルーシ共和国のユリー・デミチク医師（国立甲状腺がんセンター元所長）は、「子どもの甲状腺がんは、リンパ節転移する確率が高いのが特徴。ベラルーシ共和国で手術をせず様子を見た例と、手術をした例とでは、子どもの寿命は格段に違った。手術すれば、ほとんどの場合、高齢者になるまで健康に生きることができる」「見つけなくていいがんを見つけた、なんて言うてはいけない。見つけたがんはすぐに手術をした方がいい。それが30年間チェルノブイリで甲状腺がんと闘ってきた自分の考えだ」と述べていました。

チェルノブイリでは、事故から32年経過した今でも甲状腺検査を続けています。福島の人々が被ばくしたのは事実ですから、甲状腺検査を受け続けることが大切です。

ふくしま共同診療所 院長 布施幸彦

### 無料甲状腺エコー検査 & 健康相談 in だて

● とき 2月11日(月)

午前の部 10時～12時  
午後の部 13時～16時



● ところ 保原中央交流館 第二研修室  
(伊達市保原町字宮下111-4)

- ・ 検査と健康相談は お一人様 約15分程度です。
- ・ 甲状腺エコー検査結果は、その場でお伝えします。
- ・ 健康に関するお悩みなどお気軽にご相談ください。

事前予約制です 024-573-9335 まで

### 第3回 被曝・医療 福島シンポジウム ～事故より8年、福島の現実と課題

3月10日(日) 午後1時開会  
コラッセふくしま4階・多目的ホール  
(福島市三河南町1-20)

講演

- ◆ 矢ヶ崎 克馬氏 (琉球大学名誉教授)
- ◆ 渡辺 瑞也氏 (小高赤坂病院理事長・院長)
- ◆ 金 益重氏 (韓国・東国大学医学部教授)

参加費

医師2000円/一般1000円/学生500円

お問い合わせ ふくしま共同診療所

